



北浦っ子

令和4年度学校だより 12月号
12月23日発行
延岡市立北浦小学校 No15
文責：校長 甲斐 憲一

野口 遵 記念館開館！

したがう

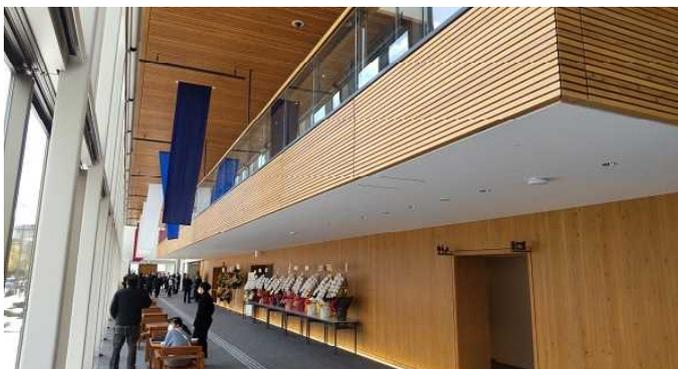
12月18日（日）に野口遵（したがう）（私は子どもの頃に「のぐちじゅん」と言っていました）記念館の開館を祝う式典が開催されました。市内の各小中学生の代表も招待され、私は6年生の植田莉愛さんと一緒に出席しました。できたてほやほやの野口遵記念館には約700人収容の大ホールやフリースペース、交流ギャラリー、野口遵顕彰ギャラリーなどがあり、これから延岡市の文化の象徴の施設となる立派なものでした。地元の杉や檜を使った建物は、自然的で落ち着く空間となっていました。

式典では市長をはじめ、旭化成の工藤幸四郎社長、ノーベル化学賞を受賞した旭化成名誉フェローであり、今回名誉館長となった吉野彰館長からの話を聞くことができ、とても有意義な時間となりました。最後には、合唱団「のべおか『第九』を歌う会」の大合唱もあり、ホールに素晴らしい歌声が響き渡り、最後を締めくくりました。今後は、スクールバスなどを利用し、新しくなった延岡城・内藤記念博物館を含め、全校児童が見学する機会を作っていきたいと思います。



猿に気をつけて！

20日くらいから猿が通学路近くに出没し始めました。はじめは高橋医院の山手の方で静かにしていましたが、今朝は高橋畳店の屋根とかに数匹の猿が登って威嚇し始めています。学校では猿への対応について話をしていますが、十分気をつけてほしいと思います。



【交流ラウンジ】



【市産材を使った大ホール】



【交流ギャラリー】



⇒ このお猿に気をつけて！

家庭教育サポートプログラム

県生涯学習課で行っている「みやざき家庭教育サポートプログラム」を本校でも実施いたしました。このプログラムは保護者や中学・高校生を対象に家庭教育に関することを参加体験型学習の様々な手法を用いて、参加者同士が交流しながら、ともに活動することを通して、親としての役割や子どもとのかかわり方、地域の親子の支援の仕方についての気づきを促すことをねらいとしています。今までは小学生を対象としていませんでしたが、初めて本校の6年生を対象に「保護者の気持ちを理解しよう」という内容でサポートプログラムを実施しました。

今回はプログラムのトレーナーである長谷寛司（はせ かんじ）さんが講師となり初めて会う子どもたちへアイスブレーキングによる緊張ほぐしを行い、本日のテーマについて学習を進めました。

まず、自宅で親に注意されることを右の写真のように付箋に書き込みました。

「ゲームのしすぎ」「早く寝ろ」「早く宿題をしろ」「片付けろ」などの言葉が子どもたちから出てきました。その後子どもたちが本人と親となって役割演技をして、注意している親の立場も体験しました。演じることで子どもたちは、「口うるさいけど、自分のことを思っているんだな」「これからは自分でちゃんとしたい」「親にどれほど負担をかけているか理解できた」などの感想が発表されました。

長谷さんは最後に「保護者はいつも真剣に子どものことを考えている」とまとめ、これから中学校でもしっかりがんばっていくようにと子どもたちに伝えました。そして長谷さんは得意のハーモニカで「ふるさと」を演奏し、子どもたちと歌って授業を終わりました。

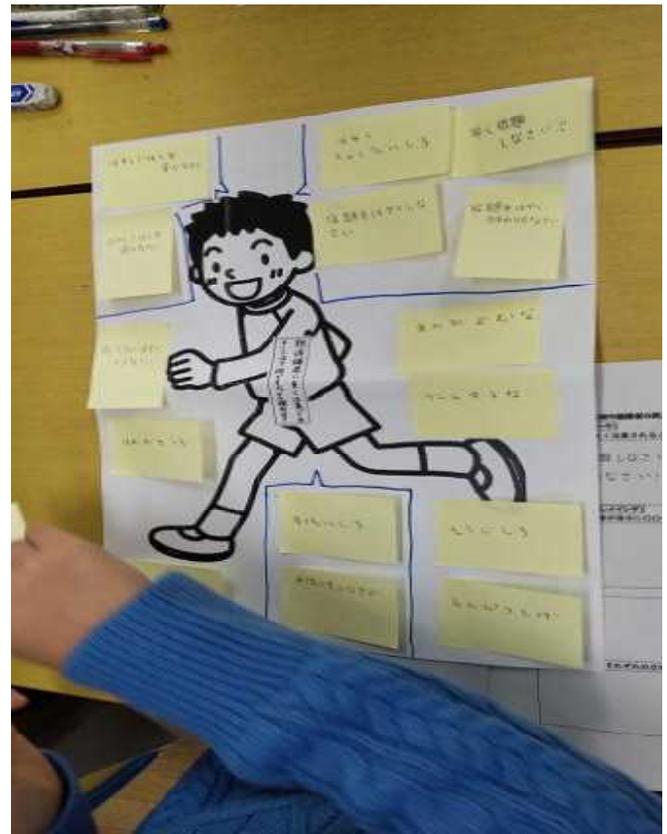
子どもたちにとっては、相手（保護者）のことを考えたり、人の意見と比べながら考えることで意識を変えることができます。学校の経営ビジョンにも掲げている

「幸動」はまさに相手のことを考えて行動するという意味ですが、このようなことをきっかけに自分のことばかりでなく、他の人や地域のことも考えられる人になってほしいと思います。

2学期も学校へのご協力ありがとうございました。よいお年をお迎えください。



【講師の長谷寛司さん】



【親からよく言われることば】



【みんなで意見交換】